

## 意見陳述

2025 年 5 月 22 日

原告 仲 地 賢 作

私は、大阪市在住でアウトドアメーカーに勤務する会社員で、現在 27 歳です。休日は、サーフィンやスノーボード、そして旅をすることが多いです。今まで、波や雪を求めてたくさんの土地を訪れ、自然と触れ合ってきました。大阪の都会の真ん中で生活をする自分にとって、海の上、雪の上でアウトドアアクティビティを行うことは精神的なバランスをとるために必要な活動で、そういった意味でそれらのアウトドアアクティビティは私の生活に直結しています。

そうして自然と触れ合っていると、異常な気候による違和感をいくつか感じるようになりました。

近年ニュースなどでよく耳にするようになった「線状降水帯」の多発もその一つです。2024 年もたくさんの線状降水帯が発生し、いくつもの水害をもたらしました。昨年 9 月には、大好きな土地である能登半島も水害に遭いました。私はよくサーフィンをしに訪れていて、能登半島地震が発生した後は復旧作業のために通っています。しかし、地震災害からの復旧途中で水害が発生しました。現場は悲惨以外の何でもありませんでした。地震の復旧の中で能登の方と多く知り合いましたが、その仲間が水害の被害を受けているのを目の当たりにして、言葉になりませんでした。

他にも感じている違和感は、激甚化している台風です。サーフィンを楽しむ私たちにとって、沖合を通過する台風は波を届けてくれる喜ばしい現象だったのですが、2018 年に上陸した大型の台風に初めて被害を受け、台風の恐ろしさを知りました。関西空港にタンカーを衝突させた台風で記憶にも残っているのではないのでしょうか。当時住んでいた地域では電柱や大木が薙ぎ倒され、風に吹き飛ばされた軽自動車横たわっていて、停電した町の中で見たその景色はショックでした。

また、近年は、上陸する台風の数も増え、しかも大型の台風が上陸するようになりました。サーフィンを楽しむ私にとって台風がただ喜ばしい現象だけでなく、被害を生む存在に変化しました。気候変動の影響で、これからも台風が巨大化すると言われていて、毎年どこかで大きな被害が出るのではないかと不安に思います。

雪についても変化を感じています。今年はたくさんの雪が降り、スノーボードを楽しむことができましたが、それはまれで、近年は、積雪量が少なくなっています。そのため、スノーボードができる期間が短くなり、また大阪から遠くに行かないと楽しめません。私は滋賀に好きなゲレンデがありますが、雪が降らなくてゲレンデがオープンしないときもあります。また、いい雪を求めると大阪から長野のあたりまで行かないとスノーボードができないことが増えてきました。

私が生まれる前から世界で地球温暖化が問題となっていたと思いますが、問題は悪化していると感じています。地球温暖化が進むと、アウトドアアクティビティができる機会や場所が減り、いつかはできなくなるのではないかと不安に思います。それだけでなく、自分の生活スタイルや居住地も変えないといけなくなる可能性も感じています。

地球温暖化には、どこで、どの程度の被害をもたらすかの予測することが難しいということが特徴にあると思いますが、実際多くの災害を起こしていて、これからさらに多くなると考えられています。これからの人生において、災害が多くなっていくことを考えると非常に不安です。被告らは私たちの主張や不安を「抽象的な可能性としてしか想定することができないもの」と言いますが、その可能性こそが不安であると私は言いたいのです。この不安は間違いなく私の心からの不安です。

最後に、私たちの世代が司法に頼らざるを得ない現状を問題視していただき、CO2 排出にまつわる社会的な動きについて「知らない」とばかり言って、責任を取ろうとしない被告らに対して、排出削減を義務付けていただきますよう、改めてここに訴えさせていただきます。